



学習評価で大切にしたいこと

指導する領域の明確化

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を「思考・判断・表現」の一つの観点で評価します。単元の中でどの領域を重点的に指導するのかを明確にして、授業をつくることが求められます。

指導事項を達成するための言語活動

単元の目標を達成するために、学習指導要領の言語活動例を参考して、適切な言語活動を設定します。「活動あって学びなし」の状態にならないように、活動のみで終わらず、指導事項の指導と評価を確実に行うことが必要です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。なお、国語科においては基本的には「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準となります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、下記のⅠ～Ⅳの内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて設定します。何の指導事項に重点を置いて、この単元で指導するのか考えることが必要です。

- Ⅰ 粘り強さ（例：積極的に、進んで、粘り強く等）
- Ⅱ 自らの学習の調整（例：学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等）
- Ⅲ 他の2観点〔知識・技能〕〔思考・判断・表現〕において、重点的に指導する内容
- Ⅳ 当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

Point

具体的な言語活動とは例えば、自分の考えを文章にまとめたり、伝え合ったり等の言語活動です。

第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕「B 書くこと 工」（言語活動例：B(2)イ）
本単元の言語活動：社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動

単元の評価規準例：粘り強く（Ⅰ）、表現の効果など確かめて文章を整え（Ⅲ）、これまでの学習を生かして（Ⅱ）、お礼状を書こうとしている（Ⅳ）。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「思考力・判断力・表現力等」の指導の中で、例えば「読むこと」の学習を通し、語彙等の習得状況を評価することが基本です。言葉のきまり等を取り上げて、ある程度のまとまった「知識及び技能」を指導し評価することもできます。

思考・判断・表現

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を評価する上で、年間指導計画を基に、3領域の配当時間数が適正になるように指導と評価をします。学習の中で自分の意見を思考し表現するような場面を設けて、発言や記述に着目し評価します。

主体的に学習に取り組む態度

具体的に設定した意見交流会等の言語活動を通しての学習への取組を評価します。例えば、発表会に向けて、自分の文章の表現を繰り返し修正している姿や、目的に合うように、既習の言語知識等を生かそうとしている姿等から見取ります。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価

授業の中で努力を要する状況を見取って目標達成へ向けて支援します。例えば、「書くこと」では「考えの形成」「記述」「推敲」等を繰り返しながら、重点とする内容の定着を図ります。

2 3観点をバランスよく評価

3観点を毎時間評価をするわけではありません。国語科では、言語活動の流れを踏まえ、単元の評価規準を基に、それぞれの時間の評価規準を考え、効果的な時間で3観点を設定します。

(例) 第2学年「B 書くこと」の授業 ◇ 単元名 「職場体験学習」でお世話になった方へお礼状を書こう
◇ 単元の評価規準 ～読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整える～

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。	①「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめ、文章を整えている。	①粘り強く、表現の効果などを確かめて文章を整え、これまでの学習を生かして、お礼状を書こうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全3時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> お世話になった方へ、お礼状を書くという単元の見通しをもつ。 お礼状の書式や既習の敬語について確認してから、下書きを書く。 	1 思		[思・判・表①] (下書き) ・読み手の立場に立ち、表現の効果等を確認、下書きを書いている。
2	<ul style="list-style-type: none"> 4人グループで下書きを読み合い、推敲のポイントに従い、コメントを付箋に記入していく。 付箋を基に、表現の効果について各自確かめ、自分の下書きを推敲する。 	主	○	[主①] (観察・下書き) ・具体的な事例の効果や敬語の使い方等に注目して、読み手にお礼の気持ちが伝わるように修正しようとしている。
3	<ul style="list-style-type: none"> 推敲をした下書きを基に、お礼状を清書する。 宛名書きをして発送の準備をする。 単元の振り返りをする。 	2 知 思	○ ○	[知・技①] (清書・下書き) ・尊敬語、謙譲語、丁寧語を適切に使用している。 [本時] [思・判・表①] (清書・下書き) ・感謝の気持ちが伝わるように、具体例の表現の効果等を確認、文章を整えている。

指導に生かす評価

単元の前半では、「推敲」等の重点的に指導する内容を明確にして生徒と目標を共有します。授業の中で、個々のつまづきの状況を見取り、表現の効果を再確認させる等の支援を行います。

記録に残す評価

言語活動の最後等に、重点とした内容が身に付いているかどうかの学習状況を記録に残します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

お世話になった方へ感謝の気持ちを伝えるために、具体例等の記述が分かりやすいかどうかを友達からの付箋等を基に判断し確かめて、自分の文章を見直し修正してお礼状を書いている。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

- ・指導事項と教材や言語活動の内容に合わせて、生徒へ期待する姿(発言や記述)を考える。
- ・記述している言葉や発言の内容が具体的にどこまで表現されていればよいのか明確にする。
- ・「自分の考えを記述する場面」等、本時の中で適切に評価する学習場面を決める。

評価方法の例

- ・文章の中から、どの言葉を選んで書いているか等のノート記述
- ・意見交流をしている様子等の観察メモ
- ・ノート等への自分の考えの記述
- ・完成した作文等の作品



学習評価で大切にしたいこと

単元を見通した学習評価

社会科では、単元のまとまりを見通して学習課題を設定し、資料等を調べ、多面的・多角的に考察したり、選択・判断したりしながら、学習課題を追究・解決します。そのため、単元を見通した目標や評価規準を設定することが重要になります。

学習改善へ向けた評価

生徒に学習の見通しをもたせるため、社会的事象についてどのような記述があればどう評価するか等、評価の方針や方法を生徒に事前に伝え、それを生徒の学習改善につなげることが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、次に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

中学校社会科は、中項目を内容のまとまりとします。そのため、「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の評価規準とすることが基本になります。しかし、単元によっては、「内容のまとまりごとの評価規準」を基にして、小項目を単元とする場合も考えられます。

C 日本の様々な地域 (3) 日本の諸地域	大項目 中項目 小項目
①中国・四国地方 ②中部地方 等	

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、下記の視点を踏まえ、単元の目標や学習内容等に応じて設定します。

- I 知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向け粘り強い取組を行おうとする側面
- II 粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面

Point

「単元の評価規準例」には、(I)と(II)の2つの側面を位置付け、「課題を主体的に追究しようとしている」としています。

第2学年 地理的分野「C 日本の様々な地域(3)日本の諸地域」(中部地方)

単元の 評価規準例	中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている(I)(II)。
--------------	--

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

地名や歴史上の人物等の語句を暗記していることだけを評価するではありません。社会的事象を自分事として捉え、既習の知識及び技能と関連付けて理解し、社会生活の場面での活用につながる知識や技能となっているかを評価します。

思考・判断・表現

社会的事象から学習課題を見だし、比較したり関連付けたり総合したりしながら社会的事象の特色や意義を考えているか、また、学習内容を自分事として捉え、社会への関わり方を選択・判断したりして表現しているか等の学習状況を捉え、評価します。

主体的に学習に取り組む態度

社会的事象について、学習課題を主体的に追究・解決しているかを評価します。例えば日本の漁獲量についてまとめた表を作成する場合、作成方法等について試行錯誤しながら主体的に進めているか等の学習状況を捉え、評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

- 1 評価内容・方法の明確化**
知識・技能を評価する場合、資料等から何を読み取ってまとめ、社会的事象について何をどのように理解していればよいのか、それをどのような方法で見取るか等を明確にします。

2 記録に残す評価場面の設定
単元の学習過程を踏まえ、記録に残す評価場面を設定します。例えば、学習課題を追究し、社会的事象を比較したり関連付けたりする等、生徒の姿が最も見取りやすい時間に位置付けます。

(例) 地理的分野「C 日本の様々な地域 (3) 日本の諸地域」の授業 ◇ 単元名「中部地方」

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ②産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。	①中部地方において、産業を中核に設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き等に着眼して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	①中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全5時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
2	・中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。	知	○	[知・技①] (ノート) ・中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。
3	・中部地方の産業における特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。	知	○	[知・技②] (ノート) ・産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。
4	・資料を収集し、工業の発展の条件について読み取り、意見を交換して考えをまとめ、東海地区でなぜ工業が発達したのかという理由を考察する。	思	○	本時 [思・判・表①] (ワークシート) ・東海地域で工業が発達した理由について、地理的・歴史的的条件等と関連付けながら考察し、表現している。
5	・中部地方の産業について、課題や解決策を主体的に追究する。	主	○	[主①] (発言・ワークシート) ・中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

指導に生かす評価

資料から必要な情報や全体的な傾向を読み取ることに困難がある場合は、複数の資料を示す、資料の一部を強調する、資料を読み取る視点を示す等が考えられます。

記録に残す評価

個々の社会的事象を比較したり関連付けたりしながら考察した記述を見取り、生徒の特徴をメモする等、全生徒の学習状況を記録します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

東海地域で工業が発達した理由について、「濃尾平野が広がっていることから、工業用地が確保できる」、「近くに名古屋港があり高速道路等の交通網も発達していることから、製品の輸送に便利である」等、地理的条件と関連付けながら考察したことを、ワークシートに記述している。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

生徒の実態を把握し、どの資料をいつ提示し、社会的事象の何について捉えさせたいかを明確にして授業を行います。

評価方法の例

- ・社会的事象が起こった原因と結果について、根拠を挙げながら表現しているか等の記述
- ・地図、統計等の資料からどんな情報を読み取ったかが分かるノートやワークシートへの記述



学習評価で大切にしたいこと

数学的活動を通して資質・能力を育成

数学的活動には、現実的な事象と数学の事象を対象とした問題解決の活動があります。これらは学習評価においても重要です。生徒が外の世界と数学を結び付け、数学を生かして事象を捉え、数や図形の性質等を見いだし発展しているか等を見取ります。

数学的に考える資質・能力を明確にし、評価

数学的に考える資質・能力を評価するには、数学を用いてどのように着目できるようになるか、式、図、表、グラフ等を用いて数学的な表現ができるようになるか等、指導事項を基に生徒の姿で明確にすることが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、「評価の観点及びその趣旨」は数学科の目標を基に、語尾を「～している」と変えることで捉えることができるようになっています。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。なお、数学科においては「内容のまとめり」をそのまま「単元」と捉えることが可能です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

数学科における「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、以下のⅠ～Ⅳを全て含め「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項も参考に作成します。

- Ⅰ 粘り強さ (例：粘り強く考え)
- Ⅱ 数学を学ぶ意義 (例：数学を生活や学習に生かそうと)
- Ⅲ 自らの学習の調整 (例：問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする)
- Ⅳ 内容のまとめりに対する学習の対象 (例：正の数と負の数、一次関数、二次方程式 等)

Point

自らの学習を調整しようとする側面は、下記の②③を踏まえます。

第2学年「C 関数(1) 一次関数」

単元の
評価規準例

- ①一次関数の(Ⅳ)意味を粘り強く考え(Ⅰ)ようとしている。
- ②一次関数について(Ⅳ)学んだことを生活や学習に生かそうと(Ⅱ)している。
- ③一次関数を活用した(Ⅳ)問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとして(Ⅲ)している。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

基礎的な概念の理解や原理・法則を理解しているかについても評価の対象となります。知識の暗記や機械的な計算の技能を身に付けているかを評価するだけでなく、例えば、計算の場合、手続きの基になっているものがあることを理解しているか等も見取る必要があります。

思考・判断・表現

「評価の観点及びその趣旨」で示されている三つの力(論理的に考察する力、統合・発展的に考察する力等)を評価します。評価では、現実的な事象を理想化・単純化して数学的に捉える場面や、数学的な表現を用いて説明し伝え合う場面等、数学的活動の過程と関連付けた評価場面の設定が必要です。

主体的に学習に取り組む態度

自らの学習を調整しようとする側面を見取るには、生徒が問題解決の過程や学んだことの意義を振り返ることが必要です。評価場面では、新たに得た数学の考え方を今後の学習や生活にどのように生かせそうか等、振り返る視点を教師が示すことも考えられます。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 現実的な事象と数学の事象をつなぐ力を育成

記録に残す評価の段階で、生徒が現実的な事象の問題解決に既習の数学を活用している具体的な姿を想定します。その姿の実現に向けて、段階的に育成します。

2 数学的活動を見据えて評価場面を設定

数学的活動の充実を図るには、その際に用いる知識及び技能の定着が必要です。単元の節目で定着状況を把握する時間を設け、その上で、思考・判断・表現の評価場面を位置付けます。

(例) 第2学年「C 関数(1) 一次関数」の授業

◇ 単元名 一次関数

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①一次関数について理解している。 ②事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ③二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。 ④変化の割合やグラフの傾きの意味を理解している。 ⑤一次関数の式を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。	①一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ②一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し、表現することができる。	①一次関数の意味を粘り強く考えようとしている。 ②一次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全17時間)

時	主な学習活動	重点	記録	2 評価規準・評価方法	指導に生かす評価
11	・一次関数の特徴に関する練習問題に取り組む。 ・学習してきたことがどの程度身に付いているかを自己評価し、学習を振り返って分かったことや今後の学習に向けた考えを記述する。	知 主	○ ○	[知・技①～⑤] (小テスト) ・知識・技能①～⑤の内容を身に付けている。 [主②③] (振り返りの記述) ・これまでの学習を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	机間指導を行い、表、式、グラフを用いて表現できていない生徒を見取り、着目する例を個別に示す等の支援をします。
12	・長方形の辺上の点が動いたとき、頂点と動点を結んでできる三角形の面積について考察する。	思		[思・判・表①] (行動観察) ・数学的な事象から二つの数量を取り出し、その関係を表、式、グラフを用いて表現できる。	
15	・ダム貯水量を基に、水量の変化を理想化・単純化して一次関数とみなし、未知の値を予測する。その際、どのような方法・手順で値を調べたか説明する。	思	○	[思・判・表①] (ノート) ・現実的な事象から二つの数量を取り出し、その関係を表、式、グラフを用いて表現し、問題解決するための方法・手順を説明することができる。	記録に残す評価 問題解決するための方法・手順を説明できているか、ノートの記述を基に評価します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

貯水量の変化の様子から関数関係を捉え、「グラフの～を見ると…」 「一次関数は～だから式は…」のように、着目した関数の特徴を具体的に挙げながら、値を調べるための方法・手順を説明することができる。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

数学的活動では、生徒主体で問題解決に取り組むこととなります。評価規準を基に、生徒が目標に到達した姿を具体化しましょう。その姿を実現するためには、生徒が既習の内容やこれまでに取り組んだ問題解決の過程を想起し、参考にできるよう、構造化した板書や、板書に対応したノート指導等を日頃から行うことが大切です。



学習評価で大切にしたいこと

育成を目指す資質・能力を評価する学習場面の設定

理科では、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を図ります。3年間を通じて計画的に育成するために、3観点の特性を踏まえて探究の過程を通じた学習場面を設定することが大切です。

生徒の学習改善へ向けた評価の実施

生徒自身に学習の見通しをもたせるために学習評価の方針を事前に生徒と共有したり、評価の結果をフィードバックする際に、どのように評価したのかを改めて生徒と共有したりすることで生徒の学習改善へつなげることが大切です。

評価の観点及びその趣旨

下記に示す「評価の観点及び趣旨」は、教科の目標を踏まえて作成されている中学校理科全体のものであり、第1・2分野ごとにも「評価の観点の趣旨」が示されています。「指導と評価の一体化」を図るためには、目標と評価の関係を捉えておくことが大切です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

なお、中学校理科では、「内容のまとまり(=大項目)ごとの評価規準」を基に、各分野ごとの「評価の観点の趣旨」も踏まえ、「単元(中項目ごと)の評価規準」を作成し、実際の指導と評価を行うことが一般的です。

(5)運動とエネルギー	大項目 中項目 小項目
(イ)運動の規則性	
⑦運動の速さと向き ⑧力と運動	

中学校理科の内容の例

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、自然の事物現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりする等、科学的に探究しようとしているかを、以下の二つの意思的な側面から評価します。

- I 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行うようとしている側面
- II Iの粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

第3学年 (5)運動とエネルギー (イ) 運動の規則性の単元の評価規準例

単元の 評価規準例	運動の規則性に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
--------------	---

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則等の理解、また、観察、実験の基本操作の習得とともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方等を身に付けているかを見取ります。見取る内容に応じて、発言、記述内容、行動観察、パフォーマンステスト、ペーパーテスト等から状況を把握します。

思考・判断・表現

自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験等を行い、その結果を分析して解釈する等、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを、発言や記述内容、ペーパーテスト等から状況を把握し、小学校で身に付けた問題解決の力をさらに高めます。

主体的に学習に取り組む態度

自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりする等、科学的に探究しようとしているかを、発言や記述内容、行動観察等から状況を把握します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 記録に残す評価場面の精選

各時間では3観点のうち重点とする評価の観点を定め、単元を通して記録に残す評価の場面を精選します。評価規準を基に、単元を見通して最も効果的な時間に位置付けます。

2 日々の授業における指導に生かす評価

記録に残す評価場面以外においても、生徒の学習状況を把握して学習改善、指導改善に生かすことは重要です。例えば、分析・解釈に課題があれば考え方を示す等の働きかけを行います。

(例) 第3学年「(5)運動とエネルギー」(イ)運動の規則性の授業 ◇ 単元名 運動の規則性

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①運動の規則性を日常生活や社会と関連付けながら、運動の速さと向き、力と運動についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	①運動の規則性について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現しているとともに探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	①運動の規則性に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全10時間)

時	主な学習活動	1 重点	記録	評価規準・評価方法	指導に生かす評価	記録に残す評価
2	身近な物体の運動の様子を調べる実験を行い、記録タイマーの正しい操作と物体の運動の様子を定量的に記録する技能を身に付ける。	知	○	[知・技①] (ワークシート) ・カ学台車に働く力を測定し、記録テープを適切に処理する方法を身に付けている。	生徒の学習状況を確認し、関係を見いだすことができている生徒へ注目するポイントを示す等、適切な働きかけや手立てを行います。	
3	物体の運動の様子を調べた実験結果を分析して解釈し、運動の規則性を見いだして理解する。	思	2	[思・判・表①] (ワークシート) ・実験結果から、力が働き続ける運動で「速さと時間」「移動距離と時間」の関係を見いだして表現している。		
8	【実験の実施、結果の処理、考察・推論】 ・実験室で台車を等速直線運動させるという課題を解決するために立案した実験を行い、その結果を分析して解釈し、改善策を考え実施する等して課題を解決する。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート) ・実験結果から、台車に働く力と台車の運動との関係を見いだして表現しているとともに探究の過程を振り返っている。		関係を見いだしているか、探究の過程を振り返っているかについて、全員の生徒の学習状況を記録し、単元の総括的な評価の資料とします。
9 10	【表現・伝達】 ・探究活動をポスターにまとめて発表し、探究の過程を振り返る。	主	○	[主①] (観察、ワークシート) ・探究の過程を振り返り、よりよい探究方法等を検討したり、新たな問題を見いだしたりしようとしている。		

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

実験結果から、台車に働く摩擦力を打ち消す等、既習の知識を使って実験室で台車が等速直線運動をする方法を見だし、自らの考えを導いたりまとめたりして表現しているとともに、課題に対して実験方法や考察が妥当であるか検討する等、探究の過程を振り返っている。

Point

具体的な生徒の姿の設定

何に気を付けて実験をすべきなのか、どのような考え方で分析・解釈したらよいのか、どのような視点で振り返るか等、生徒に意識させたいことを明確にします。

評価方法の例

- ・ 実験結果を描画した実物とペーパーテストの結果を併せて評価する。
- ・ ワークシート等の記述を分析する。



学習評価で大切にしたいこと

「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」を指導・評価をする際のポイントとなる「音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）」は、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を選択して評価します。

生徒の具体的な場面を想定した学習評価

音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けて指導することが大切です。例えば、表現の活動において、表したい思いや意図を言葉で伝え合いながら、実際に歌ったり演奏したりして音楽表現を高めていきます。その際、「おおむね満足できる」状況を想定し、授業をデザインすることがポイントとなります。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。題材の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、題材で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親むことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

音楽科における「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、意思的な側面を評価します。なお、音楽科では、下記の視点を踏まえ、題材の目標や学習内容等に応じて評価規準を設定します。

- I 文頭にその題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄を記載する。
- II 扱う分野を選択して挿入する。

Point

「楽しみながら」の部分は、「主体的・協働的に」に係る文言であり、単に活動を「楽しみながら」取り組んでいるものを評価するものではありません。主体的・協働的に取り組む際に「楽しみながら」取り組めるよう指導を工夫しましょう。

第2学年及び第3学年「A表現 歌唱」



題材の
評価規準例

歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わい（I）に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱（II）の学習活動に取り組もうとしている。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「知識・技能」は、題材単位では、その学習内容によって知識と技能に軽重を付けることも考えられます。その際は、一方に著しく偏ることがないようにすること、また年間を通じて知識と技能がバランスよく育成されることに留意する必要があります。

思考・判断・表現

音楽を形づくっている要素の知覚・感受、また知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている状況や、思いや意図をもつ過程や結果の状況の評価します。

主体的に学習に取り組む態度

題材の学習に関心もてるようにしながら、各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、題材の目標の実現に向けて自己の学習を調整しようとしながら取り組んでいるか等について、題材のはじまりから評価していくことが大切です。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 題材内でのバランスの取れた評価計画の工夫

題材のまとまりの中で各観点の評価ができるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、バランスを考慮するとともに、具体的に評価の時期や方法を考えることが大切です。

2 評価の結果を記録に残す場面の精選

授業の中で常に生徒の状況を把握し、指導を行う中で、評価規準に基づいて生徒一人一人の状況を記録に残しますが、評価の結果を記録に残す場面をねらいに応じて精選します。

(例) 第2学年「A表現 歌唱」の授業

◇ 題材名 歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう

◇ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。[知識] ②創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。[技能]	①「荒城の月」、「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	①「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽表現を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全4時間)

時	主な学習活動	知	思	主	評価規準・評価方法
2	・音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、「荒城の月」を歌唱する。				
3	・「荒城の月」と対比しながら「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、音楽表現を創意工夫する。	○ (知)	○	○	[知・技①] (ワークシート・観察) ・曲想と音楽の構造等との関わりについて理解するために、ワークシートにまとめたり意見を交流したりしている。 [思・判・表①] (ワークシート・観察) ・音楽を形づくっている要素の知覚・感受に基づく歌唱表現を創意工夫して表現している。
4	・曲にふさわしい表現で主体的に「早春賦」を歌唱する。 ・題材全体の学習の振り返りをする。	○ (技)		○	[知・技②] (演奏の聴取) ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能について学習した内容が歌唱表現に表れている。 [主①] (ワークシート・観察) ・学習活動に対して主体的・協働的に取り組んでいる。

指導に生かす評価
主体的に取り組む態度について継続的に評価します。支援が必要な生徒には風景写真を示す等、題材に関心をもち、旋律から雰囲気を感じ取らせる等、指導に生かします。

記録に残す評価
知覚・感受したことに触れながら、どのように歌いたいかについて、思いや意図をもつ過程や結果の状況を記録します。

* 例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 【思・判・表①】

音楽を形づくっている要素 (リズム、速度、旋律の音のつながり、強弱) を知覚・感受し、そのこととの関わりについての考えをワークシートに記述 (例: 最後のフレーズは、残念な気持ちをppやrit.に込めて歌いたい) し、思いや意図をもって歌っている。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

- ・記述している言葉や発言の内容が具体的にどこまで表現できていればよいのか明確にする。
- ・本時の中での評価する学習場面を決める。

評価方法の例

- ・どのように工夫して歌いたいかについて、発言したり歌い表そうとしたりしている。
- ・感じたことや音楽の特徴等に触れながら、どのように歌いたいか、思いや意図をノート等にも書いている。



学習評価で大切にしたいこと

「知識」は〔共通事項〕が活用されているかを評価

「知識」は暗記に終始するものではなく、「造形的な視点を豊かにするための知識」として、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果を理解することや、造形的な特徴等を基に、全体のイメージや作風等で捉えることを理解できているか評価します。

「思考・判断・表現」は「発想や構想」と「鑑賞」を評価

「思考・判断・表現」の評価は、「発想や構想」と「鑑賞」をそれぞれ評価し、授業外で総括します。そのためには、表現と鑑賞を関連させ、発想や構想でも鑑賞でも働く中心となる考えを、授業の中で効果的に生かす授業改善が大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を参考にして評価規準を設定することが必要です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

上記の「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、下記的美術科の内容のまとまりを確認し、題材の具体的な内容も加えて、題材の目標や評価規準を作成します。

中学校美術科の内容のまとまり	感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現	「A表現」(1)ア(2)、〔共通事項〕
	目的や機能などを考えた表現	「A表現」(1)イ(2)、〔共通事項〕
	作品や美術文化などの鑑賞	「B鑑賞」、〔共通事項〕

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

- 学年の「観点及びその趣旨」との関連を考慮しながら、各題材の「知識・技能」、「思考・判断・表現」の評価規準と対応させて作成する。

各題材の「内容のまとまり」の「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価規準と対応させて、文末を「～しようとしている」等で示します。評価する際には、授業中に生徒の学習状況から見取るだけでなく、粘り強く学習を調整している状況を把握するために、題材のはじめから終わりまでをしっかりと見取ります。

- 題材の目標に「感性を育み」等はあってもいいが、観点別評価には入れない。

「感性を育み」等は3年間を通した大きな目標であり、観点別評価にはなじまないため、教師の声掛けやワークシートへの記述等で行う個人内評価で行います。「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準には含まないようにしましょう。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「A表現」の場合の「知識」は、「技能」が発想や構想をしたこと等を基に表す技能であるため、生徒の様子や作品から「技能」と一緒に見取ります。「B鑑賞」の場合は、生徒の様子やワークシートから見取ります。題材終了後に双方を総括することが考えられます。

思考・判断・表現

各題材において、「発想や構想に関する資質・能力」と「鑑賞に関する資質・能力」をそれぞれ評価し、題材の最後に授業外で双方を総括して評価することが考えられます。その際、表現と鑑賞を関連させ、バランスよく評価することが大切です。

主体的に学習に取り組む態度

題材において設定した「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を、生徒が学習活動の中で「楽しく」（第1学年、「主体的に」（第2学年及び第3学年）身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう態度を評価します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1と2のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価

特に題材前半に、評価規準を通して生徒の学習状況を見取り、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげます。例えば、努力を要する状況の生徒を見て、その生徒への手立てや材料の追加をする等の授業改善を行います。

2 3観点をバランスよく評価

題材の中で、3観点をどこで見取り評価するかを教師が意識しておきます。題材の終了後に、「知識」と「技能」、「発想や構想」と「鑑賞」の評価をそれぞれ総括していくことが必要です。

(例) 第2学年「A表現」と「B鑑賞」の授業を関連させた授業 ◇題材名 ○○商品をアピールするパッケージを考える
◇ 題材の評価規準 ~商品の内容やよさ、特徴を効果的に相手に伝えよう~

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色などが感情にもたらす効果や商品の内容や造形的な特徴などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表し、制作の順序などを考え見通しをもって表している。</p>	<p>発 商品のよさや特徴を伝えることなどを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 商品の特徴を伝える目的や調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に商品の特徴を他の人に分かりやすく伝えることを基に構想を練ったり、表現方法を追求して創造的に表したりする学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に商品の特徴を他の人に分かりやすく伝えることを基に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

◇ 指導と評価の計画 (全8時間)

※**知**知識、**技**技能、**発**発想や構想、**鑑**鑑賞、**態表**態度(表現)、**態鑑**態度(鑑賞)

時	主な学習活動	1 知	思	主	2 評価規準・評価方法
1	・本物の商品のパッケージを鑑賞し、表現の意図や工夫を読み取る。	知	鑑	態鑑	鑑 (生徒の様子、ワークシート) 商品の特徴を伝える目的や調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えている。 本時
2	・オリジナル商品のよさや特徴を、効果的に相手に伝えるパッケージを考える。	技	発	態表	発 (ワークシート) 商品のよさや特徴を伝えることを基に、伝える相手や内容から主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。
7	・主題を基に、商品パッケージの特徴を効果的に伝えることができるように創意工夫して創造的に表す。				技 (生徒の様子、作品) 意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表し、見通しをもって表している。 知 (生徒の様子、作品) 形や色などが感情にもたらす効果や商品の内容、造形的な特徴などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解している。
8	・完成したパッケージを鑑賞し合い、表現の意図や工夫を読み取る。		鑑	態鑑	態鑑 (生徒の様子) 主体的にオリジナル商品の特徴を他の人に分かりやすく伝えることを基に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
授業外		知技	思判表		それぞれの観点を総括する。(作品、ワークシート他)

指導に生かす評価

題材前半の□では、生徒の学習状況から、つまずきを見取り、個に応じた手立てをする等、指導改善を行います。

記録に残す評価

題材後半の□では、題材の最後や授業外で、作品やワークシート等から各観点の評価を決定し、総括します。そのためには、必要に応じ、授業内で適宜記録を残しておくことも考えられます。

*例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表]

本物の商品を鑑賞して、その商品の特徴や調和のとれた美しさなどを感じ取り、それらを消費者に効果的に伝えるために、配色や構図等、作者の表現の意図や工夫などについて考えている。

Point 「鑑賞」のワークシートを工夫する

本時の「鑑賞」の評価は、授業の様子や鑑賞のワークシート等から見取ります。同時に「知識」として(共通事項)が活用できたかを見取るために、ワークシートの項目を工夫することが必要です。



学習評価で大切にしたいこと

技能の向上を意識した指導と評価

第1・2学年では、各単元の初めに小学校からの学習内容の系統性を考えて、生徒の実態を踏まえ、指導事項を配置します。また、技能の高まりに要する時間も考慮して、単元計画に評価場面を位置付けます。

指導事項間の関連を図る工夫

例えば、パスやシュート等、技能のポイントを知識として学ぶ機会を設け、練習場面を設定し実際に練習した上で、その評価を行います。練習を通して得た気づきを踏まえて、話し合いの場面で他者へ伝えている内容を基に評価できるよう、場面設定することが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。中学校保健体育科では体育分野と保健分野があるため、下記の「また、」以降を保健分野の趣旨として示しています。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、〔体育分野〕は、学習指導要領の(3)「学びに向かう力、人間性等」における指導事項の文末を「～しようとしている」に変え、以下のⅠ～Ⅴに該当する内容で分けて、評価規準を作成します。「健康・安全」に関する内容は「～している」と表現します。〔保健分野〕は、学習指導要領の内容に「学びに向かう力、人間性等」に関する内容が示されていないため、「主体的に学習に取り組む態度」については、保健分野の目標の(3)を参考にします。

- Ⅰ 自主的、積極的な態度 (例 自主的に、積極的に 等) Ⅱ 公正、協力 (例 ルールやマナーを、フェアな 等)
Ⅲ 責任、参画 (例 場の準備、片付けを、一緒に 等) Ⅳ 共生 (例 一人一人に応じた、仲間の学習を援助 等)
Ⅴ 健康・安全 (例 健康・安全に気を付ける 等)

〔体育分野〕第1学年 「E 球技(ゴール型) バスケットボール」

- 単元の評価規準例
- ①学習に積極的に(Ⅰ)取り組もうとしている。
 - ②練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助(Ⅳ)しようとしている。
 - ③マナーを守ったり、フェアなプレイを守ったり(Ⅱ)しようとしている。
 - ④作戦等についての話し合いに参加(Ⅲ)しようとしている。
 - ⑤健康・安全に留意(Ⅴ)している。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

体育分野では、「知識」と「技能」の評価規準に分けて設定します。保健分野では、ストレスへの対処と応急手当で技能を含みますが、「知識」と「技能」を分けることなく相対的に捉えて指導し評価します。

思考・判断・表現

「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に分けて設定します。「思考・判断」の評価は「知識」の評価と混同しないように、なぜそう考えたのかを問う等、思考のプロセスを評価します。

主体的に学習に取り組む態度

課題解決に向けての話し合いの姿や既習技を活用し学習に進んで取り組もうとしている姿や単元のゴールへ向けて自分でよりよいやり方を考え、工夫している姿等の意思的な側面を評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価

生徒の学習状況を見取り、支援に生かす評価です。例えば、自他の技と完成技を動画で比較することで、生徒は共通点や相違点に気がきます。その上で、個別の支援をします。

2 3観点をバランスよく評価

3観点を毎時間評価するわけではありません。例えば、練習して習得した技能を評価する時間や試合への取り組み方を評価する時間等、学習状況を見取る場面を重点化して評価します。

(例) 第1学年 「E 球技 (ゴール型 バスケットボール)」の授業
◇ 単元の評価規準

◇ 単元名 球技 (バスケットボール)

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①バスケットボールには、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、話したり書き出ししたりしている。 ②バスケットボールにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。	○技能 ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスをだすことができる。 ③パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。	①学習に積極的に取り組もうとしている。 ②練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ③マナーを守ったり、フェアなプレイを守ったりしている。 ④作戦等についての話し合いに参加しようとしている。 ⑤健康・安全に留意している。

◇ 指導と評価の計画 (全10時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法	指導に生かす評価
1	オリエンテーション ボール慣れゲーム	知	1	[知識①] (観察、学習カード) ・ 攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、話したり書き出ししたりしている。	指導に生かす評価 学習カードに種目の特性を書き出せていない生徒に対して、絵図や動画を示す等して、特性の理解を支援します。 記録に残す評価 動きのポイントやつまずきについて、生徒の理解を十分進めた段階で、記述や発言の様子を基に評価します。
2	ボール操作 ドリブル、パス、シュート等	主			
3		技			
4	基礎的技術の習得 課題解決の練習 空間に走り込む等の動き	主	○	[技能②] (観察) ・ フリーの仲間を見付け、相手の動きに合わせてパスを出すことができる。	
5		知	○		
6	課題の確認と解決の練習 簡易ゲーム	思		[主②] (観察) ・ 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。	
7		思			
8	簡易ゲームの修正 最終リーグ戦Ⅰ	技	○		
9		思	○	本時 [思・判・表①] (学習カード、観察) ・ 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。	
10	最終リーグ戦Ⅱ 単元のまとめ	総括的評価			

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

話し合いの場面で、完成技の動画を参考に、仲間の課題や出来映えに対して「ここで~のように動けば」や「もっと仲間と~できれば」等、提示された動きのポイントやつまずきを踏まえて伝えている。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

仲間の技について改善箇所を指摘できる等、生徒が自らの気づきを基に他者へ伝える発言や記述を評価します。そのため、目標に到達した姿を教師が具体で例示し、生徒と共有しておくことが大切です。



学習評価で大切にしたいこと

問題解決的な学習と評価

技術分野で目指す資質・能力は、単に何かをつくる活動だけで育成できるものではありません。問題解決的な学習を通して、知識と技能、課題解決力、技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養います。知識・技能のみを重視した評価とならないようにすることが大切です。

発達段階に合わせた評価の視点

評価規準を設定する際に参考とする学習指導要領解説は、第3学年を念頭に書かれています。指導する学年が第1学年の場合は、問題を見いだす範囲を生活としたり、解決する際に配慮する視点を、安全性に限定したりして設定するなど、発達段階に合わせた視点で見取ることが必要となります。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す技術分野の「評価の観点及びその趣旨」を確認して評価の基本的な枠組みを捉えます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。

なお、技術分野では、「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、右記の「内容のまとめり」（項目）及びその要素を抜き出し、題材の評価規準を作成します。

内容：A 材料と加工の技術

項目：(1)生活や社会を支える材料と加工の技術

※技術・家庭科では項目が「内容のまとめり」となります。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、下記のⅠ～Ⅲの内容を全て含め、題材の目標や学習内容等に応じて設定します。

- Ⅰ 粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面）
- Ⅱ 自らの学習の調整（Ⅰの中で自らの学習を調整しようとする側面）
- Ⅲ Ⅰ、Ⅱの学びの経験を通して涵養された、技術を工夫し創造しようとする態度

第1学年 内容「A 材料と加工の技術」

内容Aの項目(1)、(2)、(3)をまとめて一つの題材で指導する際の評価規準の例

題材の
評価規準例

よりよい生活や社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり（Ⅰ）、振り返って改善したり（Ⅱ）して、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている（Ⅲ）。

Point

必要に応じて分野別の評価の観点の趣旨を基に、「内容のまとめり」ごとの評価規準の要素を加える等（下線の部分）、題材の評価規準を設定します。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

基礎的な技術について、その仕組みの理解やそれらに係る技能の習得状況を評価します。技術に関する科学的な原理・法則とともに、技術と生活や社会、環境との関わり及び生活等の場面でも活用できる技術の概念の理解も評価します。

思考・判断・表現

技術を用いて生活や社会における問題を解決するための思考力、判断力、表現力等が育成されたかを評価します。指導する学年や、学習過程の中の位置付けを踏まえ、思考力等の発揮している具体をイメージした上で評価することが大切です。

主体的に学習に取り組む態度

進んで知識及び技能を獲得しようとしていたり、課題を解決しようとしていたりしながら、技術を工夫し創造しようとしているかを評価します。観察以外にレポートや設計図、振り返りカード等の記述や、評価資料のポートフォリオを時系列で比較し、総括して評価します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1と2のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」
 実現するために何時間かの指導が必要な目標については、指導の前半で学習状況を見取り、必要な生徒に対して個別の指導を行います。指導の後半で、その目標の実現状況が把握できる段階で記録に残す評価を行います。

2 主体的に学習に取り組む態度の評価
 「生活や社会を支える技術」を理解する場面では、技能を評価する場面が少ないので、「技術による問題の解決」と合わせて複数の学習活動に共通するよう評価規準を整理・統合し、同じ規準で評価することができます。

(例) 第1学年 内容Aの授業

◇ 題材名 材料と加工の技術によって、生活に役立つ整理箱をつくらう

◇ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み及び、材料と加工の技術と安全な生活や社会とのかかわりについて理解しているとともに、製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検ができる技能を身に付けている。	生活の中から材料と加工の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けているとともに、安全な生活や社会の実現を目指して材料と加工の技術の評価し、適切に選択、管理・運用する力を身に付けている。	よりよい生活や社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全20時間)

時	主な学習活動	知	思	主	評価規準・評価方法
1 ・ 2	・3年間の学習の見通しをもつ。 ・社会や生活で使用されている整理棚や小物入れの工夫について調べる。		○		[思・判・表] (レポート) ・材料と加工の技術にこめられた工夫を読み取り、材料と加工の技術の見方・考え方に気付いている。
7 ・ 8 ・ 9	・設定した課題に基づき、材料の選択や成型の方法を検討し、製作したい製品を構想して必要な図をかき。	○	○	○	[思・判・表] (ワークシート) ・製作品やその構成部品の適切な形状と寸法などの設計を具体化し、表現できる。 [知・技] (設計図) ・製作に必要な図をかき表すことができる。

指導に生かす評価

第6時で得た知識を生かして製作に必要な図をかき第7時では、「努力を要する」状況になりそうな生徒を見取り、必要な支援をしています。

記録に残す評価

第9時で、製作に必要な図をかき表すことができているかを評価規準に照らして評価し記録します。

*例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例【思・判・表】

自らの構想についてワークシートや設計図に具体化し、発表するとともに、互いの構想について使用目的や使用条件などを確認した上で、必要な条件を踏まえて検討し、互いの構想がよりよくなるように意見を述べている。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために
 構想図を基に実現可能な設計図をかけているかや、記述している言葉や発言が設計図等を改善するための具体的な内容で表現できているか、生徒の姿のイメージを明確にします。

評価方法の例

- ・自らの構想を記入したワークシートや、それらを具体化した設計図
- ・話し合いの様子等を観察したメモ
- ・互いの構想に対する考えの意見や記述



学習評価で大切にしたいこと

3 学年間を見通した題材計画

家庭分野では、学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織した**題材**を構成し、分野の目標の実現を目指しています。そのため、3 学年間を見通した題材の計画的な配列が必要です。履修学年を踏まえた題材計画や目標、評価規準を設定しましょう。

実践的・体験的活動と評価

生活の自立に必要な基礎的な知識及び技能は、実践的・体験的な活動を通して生徒が習得します。生徒の発達段階や学習のねらいを考慮して製作、調理等の実習や、観察、実験等、適切な学習活動を設定して評価を行いましょう。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す家庭分野の「評価の観点及びその趣旨」を確認して評価の基本的な枠組みを捉えます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

なお、家庭分野では「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、右記の「内容のまとめり」（項目）及び指導事項に関係する部分を抜き出し、題材の評価規準を作成します。

内容：C 消費生活・環境

項目：(2)消費者の権利と責任

※技術・家庭科では項目が「内容のまとめり」となります。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、下記のⅠ～Ⅲの内容を含め、家庭分野の目標（3）や学習内容に応じて設定します。

- Ⅰ 粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとすること）
- Ⅱ 自らの学習の調整（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりする中で自らの学習を調整しようとする）
- Ⅲ 実践しようとする態度（生活を工夫し、実践しようとする）

Point

題材の評価規準の作成時には、下線の部分に学習指導要領に示す項目（内容のまとめり）を設定します。

第3学年 内容C（2）消費者の権利と責任

題材の評価規準例：よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり（Ⅰ）、振り返って改善したりして（Ⅱ）、生活を工夫し創造し、実践しようとしている（Ⅲ）。

3 観点を評価する上での留意点

知識・技能

主に家庭生活に関する内容を取り上げ、生活の自立に必要な基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けているかどうかを、確認テストや実践記録表、実習を通じた行動観察等から評価します。

思考・判断・表現

習得した知識及び技能を活用し、家族・家庭や地域における生活の課題を主体的に捉え、具体的な実践活動を通して課題を解決する力が養われたかを問題解決的な学習の中で評価します。一連の学習過程の場面を捉え、自分の考えの根拠や理由を明確にして筋道を立てて説明できるかを記述内容や発言等から判断します。

主体的に学習に取り組む態度

よりよい生活の実現に向けて、知識及び技能を活用しているか、考え工夫しているか、実践しようとしているかを評価します。題材のまとめりの中で事前に評価時期を定め、ポートフォリオや実践記録表等の記述や行動観察等から評価します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価とは

努力を要すると判断される生徒への支援と手立てを考えるための評価です。例えば、図や写真のヒントカードを示したりワークシート等で学びを振り返る等、個に応じた指導を工夫することが大切です。

2 問題解決的な学習の中で評価場面を位置付ける

家庭分野では、実生活との関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れて目指す資質・能力を育成します。問題解決的な学習の中で、生活の自立に必要な知識及び技能の習得や課題を解決する力が養われたか等を評価できる場面を精選し、位置付けましょう。

(例) 第3学年 内容C (2)消費者の権利と責任 の授業

◇ 題材名 私たちの消費生活

◇ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	①自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全6時間)

時	主な学習活動	重点	記録	2 評価規準・評価方法	指導に生かす評価
1	・自分や家族の消費生活に関心を持ち、自分の消費行動の課題に気付く。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート・観察) ・自分の消費行動について問題を見いだして課題を設定している。	題材の前半で、持続可能な社会の構築等の視点から、適切な選択、購入について考えがもちにくい生徒を把握し、個別の支援に生かすための評価です。
3	・身近な商品の選択、購入場面を取り上げ、適切な選択、購入とはどんなことに気を付ければよいかを考える。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート・観察) ・商品の適切な選択、購入について考え、工夫している。	
4	・消費者被害の背景を知り、その対応について理解する。	知	○	[知・技①] (ワークシート) ・消費者被害の背景とその対応について理解している。	
5	・消費者の権利と責任について理解し、消費者として自覚ある行動について考える。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート・観察) ・消費者として自覚ある行動について考えている。	記録に残す評価 題材の後半で、目標とした力が身に付いているか記述内容から評価し、総括に生かします。
6	・商品の適切な選択、購入とはどんなことに気を付ければよいかを考える。	思 主	○ ○	[思・判・表①] (ワークシート・観察) ・商品の適切な選択、購入について工夫している。 [主①] (ワークシート・観察) ・よりよい消費生活について工夫し創造し、実践しようとしている。	

* 例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準がより具体的になった生徒の姿 [思・判・表①]

商品の選択や購入について、既習の消費者被害や消費者の権利と責任のことを踏まえて具体的な工夫を記述 (例：環境への配慮から詰め替え用商品を選択する) している。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

- ・生徒が、実感を伴って理解したことが具体的に記述できるように実践的・体験的な活動を実施する。
- ・事前に予想される生徒の考えや工夫を複数予想する。

評価方法の例

- ・実習に関する計画や、考え工夫したことを記録した実践記録表
- ・実験や実習時の行動観察



学習評価で大切にしたいこと

目標・指導・評価の一体化

ゴール（身に付けさせたい資質・能力）を生徒と共有しましょう。達成した姿を具体化して目標を設定し、その力を育成するために言語活動を通して指導を行い、評価します。

多面的・多角的な評価

ペーパーテスト（定期考査や単元テスト、言語活動の際に用いるワークシート等）や、パフォーマンステスト（スピーチやインタビュー、ディスカッション等）、活動の観察等により評価を行います。

評価の観点及びその趣旨

外国語科における「内容のまとめり」は、五つの領域（聞く、読む、話す〔やり取り、発表〕、書く）であり、領域別に3観点で評価します。「教科目標」「内容のまとめりごとの評価規準」等に基づき、各学校が生徒の実態等に応じて「学年ごとの目標」を設定した上で、「単元ごとの評価規準」を作成します。下記に示す「評価の観点及びその趣旨」も合わせて確認します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。 	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」については、「知識・技能」「思考・判断・表現」で重点とする内容を踏まえた上で、「粘り強さ」「自らの学習の調整」の二つの面から評価します。外国語科では、基本的に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は「思考・判断・表現」の評価規準と一体的に設定します。

「話すこと〔やり取り〕ウ」 第3学年

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由等を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。



単元の評価規準例
聞き手に伝わるように、伝統文化についての意見文を読んで、自分の考え、気持ち等を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。

Point

評価規準は、各領域の「基本的な形」を参考にして作成することができます。左記の〔やり取り〕では、「【目的等】に応じて、【話題・事柄】について読んで、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。」が「基本的な形」として例示されています。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

英語の特徴やきまりに関する事項を理解しているかを「知識」として評価します。実際のコミュニケーションにおいて、「知識」を活用して、日常的话题や社会的な話題について、自分の考え等を簡単な語句や文を用いて表現できる力を身に付けているかを「技能」として評価します。

思考・判断・表現

コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、話したり書いたり表現したり伝え合ったりしている状況や、話されたり書かれたりする文章等から聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点等を捉えている状況の評価します。

主体的に学習に取り組む態度

左記の〔思・判・表〕で示すことを「しようとしている」状況の評価します。また、資質・能力を生徒と共通理解し、言語活動の振り返りで、自らの成果や課題、次への目標を明らかにさせ、その取組状況を継続的に見取ることも大切です。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1と2のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 記録に残す評価を補完

記録に残す評価場面のない授業においても、指導改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況を継続的に確認し、単元や学期末の評価を決定する際の参考にしていくことが大切です。

2 観点のバランスとパフォーマンステストによる評価

単元の中で3観点5領域を評価する場面を設定します。確実に全員分の記録を残すために、学期末等にペーパーテストやパフォーマンステストを実施します。授業中の活動の観察、振り返りやワークシートの記述内容も加味し、評価を決定します。

(例) 第3学年 「話すこと [やり取り]」の授業 ◇ 単元名 日本の伝統文化に関する英文を読み、引用しながら自分の考えや気持ちを伝え合おう
◇ 単元の評価規準 「話すこと [やり取り]」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①現在完了について理解し、やり取りの中で適切に使っている。伝統文化について読み、自分の考え、気持ち等を現在完了等を用いて述べ合っている。	①聞き手に伝わるように、伝統文化についての意見文を読んで、自分の考え、気持ち等を、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。	①聞き手に伝わるように、伝統文化についての意見文を読んで、自分の考え、気持ち等を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全8時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
4	・現在完了を扱った対話文を読み、英文を引用する等しながら、考えたことや感じたこと等を伝え合う。	1 主 (知)		[主①] (活動の観察) ・適切に英文を引用しながら、やり取りを継続する等して、自分の考えを伝え合おうとしている。
6	・現在完了を扱った教科書とは別の対話文や文章を読み、引用しながら考えたことや感じたことをペアで伝え合う。	2 思		[思・判・表①] (活動の観察) ・英文を引用しながらやり取りを継続する等して、自分の考えを伝え合っている。
7	・ピクチャー・カードを使い、現在完了を正しく引用しながら、教師やALTに教科書の内容について説明する。	知	○	[知・技①] (活動の観察、ワークシート点検) ・現在完了を正しく用いて、教科書の内容を説明している。
8	・初見の文章を読み、英文を引用する等しながら、考えたこと、その理由等を伝え合う。 ・ペアで話した内容を踏まえ、自分の考え等を書く。	知 思 主	○	[思・判・表①] (活動の観察) ・初見の英文を引用しながら、やり取りを継続する等して、自分の考えを伝え合っている。 ※確実に全員分の記録を残すために、後日パフォーマンステストを行う。

指導に生かす評価

生徒の英語での言語活動(やり取り)の状況を見取ることが大切です。

記録に残す評価

単元末の言語活動を観察し、第8時の観察の結果を本課の評価情報として極力記録に残すようにします。

* 例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

伝統文化について書かれた初見の文章を読み、現在完了形を用いた英文を引用しながら、やり取りを継続する等して、聞き手に伝わるように、自分の考えを伝え合っている。

Point

[やり取り]の見取り方

教師が1時間で全ての生徒のやり取りを見取るとは現実的ではありません。パフォーマンステストで確実に見取り、記録に残すことを目指しますが、単元の最終時でも極力見取りを行い、記録します。ペアを替えたり、TTで実施したり等、見取りの機会を増やし観察を行います。

特定の言語材料の使用の見取りについて

パフォーマンステストや単元の最終時で、[知・技]の評価規準に関して、特定の言語材料の使用が見られなかった場合、それまでの観察結果を加味することが考えられます。条件を揃えた上でやり取りを観察することは難しい場合もあるので、記録を補完できる場面を設けておくことで安心です。



学習評価で大切にしたいこと

学校全体における評価体制の確立

特別活動は、全校または学年を単位として行う活動があり、学級担任以外の教師が指導することも多いです。各学校で生徒一人一人の活動状況を把握し共有できる評価体制を確立し、共通理解を図って、子供たちのよさや可能性を多面的・総合的に評価できるようにすることが大切です。

指導改善につながる評価の実施

評価を通じて、生徒への指導だけでなく教師が自己の指導の内容や方法、指導過程等を振り返り、より効果的な指導が行えるような工夫改善を図ることが大切です。

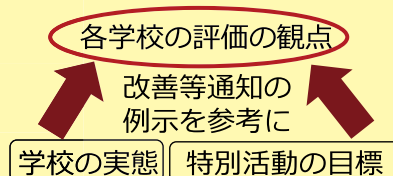
評価の観点及びその趣旨

特別活動は、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者である各教育委員会ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としています。下記に示す「評価の観点及び趣旨」は、各学校において評価の観点を設定する際の参考になります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己の実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

Point 各学校において評価の観点を設定

評価の観点は、学校の実態、学習指導要領の特別活動の目標を踏まえ、改善等通知の例示を参考に各学校で設定します。その際、社会参画等、学校として重点化を図った内容を踏まえた評価の観点になるようにするため、校内研修等で協議する場を設け、全職員で共通理解を図ります。



「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

特別活動における「主体的に学習に取り組む態度」は、自己のよさや可能性を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成します。

- I 粘り強さ（例：粘り強く、積極的に、進んで 等）
- II 自らの学習の調整（例：見通しをもったり振り返ったりして 等）
- III 自己のよさや可能性等を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度

Point

学習指導要領解説に示されている目指す資質・能力の例示を参考に、自校として目指す資質・能力を設定し、評価規準を作成します。

「学級活動（2） 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を進んで（I）形成しようとしている。
他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しをもったり振り返ったり（II）しながら、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。
将来にわたって自他の健康で安全な生活を構築しよう（III）としている。

Point

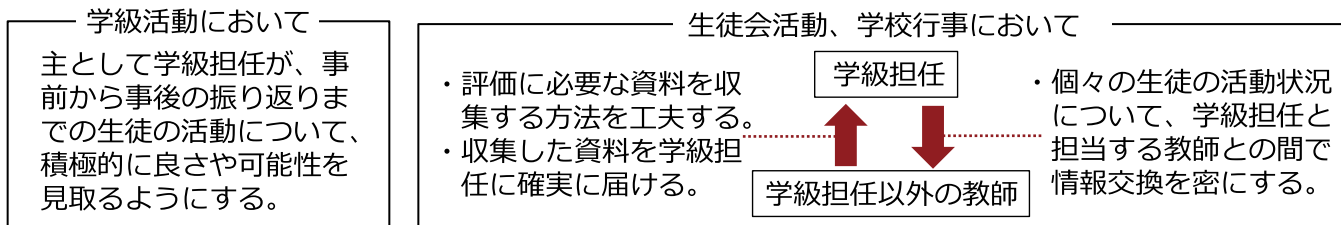
期間を定めて振り返りの場を設定し、「主体的に学習に取り組む態度」を見取る

学級活動（2）の評価は、自己の課題の解決方法について意思決定したことを実践できているか、事後の実践の期間を例えば一週間程度で振り返り、「振り返りカード」等を活用して努力や成果の足跡を残すようにします。それらの記述を評価の参考にし、粘り強く実践する態度等について評価を行います。生徒会活動や学校行事においても同様に振り返りの場を設定し、活動のまとめをしたり発表し合ったりする活動を見取り、評価を行います。

学習評価における留意点

評価体制の確立

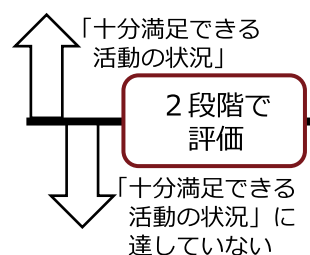
特別活動は、全校または学年を単位として行う活動があり、学級担任以外の教師が指導することも多くあります。そのため、各学校において評価体制を確立し、共通理解を図りながら評価することが大切です。



「十分満足できる活動の状況」を2段階で評価

特別活動における「十分満足できる活動の状況」は、2段階で評価を行います。その際、学級活動ファイルにおける事前の意見や実践後の振り返り等の記述を参考にしたり、話し合いや実践の様子を観察したりしながら機会を捉えて評価することが大切です。

また、各学校で「十分満足できる活動の状況」とは「生徒のどのような姿」を指すのかを話し合い、全職員で共通理解を図っておくことが重要です。



観点別学習状況の評価の総括

各活動では学期や年間を通して一覧で確認できる評価補助簿を活用すると、事実に基づいて評価の総括ができます。

〈学校行事における評価補助簿の例〉

番号	名前	知・技	思・判・表	主体的態度	メモ	総括
1	A	○	○	○	9/13 体育会に向けて 自分にあつためあてを立てている。	○
2	B		○	○	9/20 文化祭に向けて 互いのよさを生かすために自分には何ができるか考えることができた。	
3	C		○○	○○	9/20 文化祭に向けて 進んでよりよい合唱をつくろうと、学級みんなに声掛けを行うことができた。	○

一連の学習過程を通して、メモ欄にその生徒の様子を記述しながら、その都度「十分満足できる活動の状況」の場合、機会を捉えて評価し、観点別に○を付けます。また、総括して○を付ける際は、学校で方法を統一しておくことが必要です。

生徒指導要録における特別活動の記録

【中学校生徒指導要録（参考様式）様式2の観点の記入例】

特別活動の記録					
内容	観点	学年			
		1	2	3	
学級活動	集団や社会に参画するための知識・技能 協働してよりよい生活や人間関係を築くための思考・判断・表現				
生徒会活動	主体的に目標を立てて共にによりよく生きようとする態度				
学校行事	余白				

各学校で定めた評価の観点を指導要録に記入した上で、各活動・学校行事ごとに、十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に○を記入します。

左の例では「特別活動における資質・能力の視点を基に重点化を図った例」を記入していますが、各学校で定めた観点を記入します。

観点の下は、変更がある場合を想定して余白をとっておきます。